



東海ブロックのHIV医療体制整備

ーコロナ禍における東海ブロックのHIV診療体制についての報告ー

分担研究者 今橋 真弓

独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター臨床研究センター
感染・免疫研究部 感染症研究室長

研究要旨

新型コロナウイルス感染症の感染者数増加とともに、HIV診療体制も変化が認められた。定期通院者数に大きな変化は認められなかったが、紹介元は保健所からの紹介が減少した。また海外のロックダウンによる国内外国籍患者の処方困難例が認められた。今後も感染状況に応じた柔軟な検査・診療体制を構築する必要がある。

背景

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の蔓延に伴い、医療供給体制にも大きく変化が求められている。またCOVID-19蔓延阻止を狙い、地域によっては緊急事態制限、および国によってはロックダウンが発令されてきた。こうした社会状況がHIV診療に与えた影響を記録しておくことは今後の医療供給体制を考える上で必要である。

A. 研究目的

本研究では、コロナ禍における東海ブロックのHIV診療がどのように変化したか記録することを目的とした。

B. 研究方法

2019年1月～12月と2020年1月～12月の受診者状況を調査した。調査項目は下記のとおりである。

- ✓ 月別定期受診者数、未治療新患者数、電話診療者数
- ✓ 未治療新患者の初診時CD4数、病期、検査機会
- ✓ 当科かかりつけ患者の新型コロナウイルス感染者の年齢・BMI・合併症・CD4数・ウイルス量・収容先

未治療新患者の初診時CD4数・病期・検査機会についてはX²乗検定を行い、 $p < 0.05$ で有意差ありと判定した。

C. 研究結果

1) 月別定期受診者数・未治療新患者数・電話診療者数（図1）

月別の定期受診者数は2019年と比較して大きな変化は認められず、600人前後で2020年も推移していた。未治療新患者数は例年と同様であった。

電話診療は第一波のころ、2020年4月に急増した。その後は大きな増加は認められなかった。当院の救急受け入れ中止は院内感染者発生時1度あったが、特に定期受診者の減少にはつながらなかった。

2) 新規未治療患者の初診時CD4数・病期・検査機会（紹介元）別人数（図2）

新規未治療患者の初診時CD4数は200未満が2019年は44%だったが、2020年は54%であった。初診時病期は2019年はAIDS発症が26%であったが、2020年度は27%と微増していた。検査機会、つまり紹介元は保健所が2019年は23%を占めていたが、2020年は13%まで減少していた。（ $p < 0.05$ ）

3) 当科かかりつけの新型コロナウイルス感染者（図3）

2021年2月までに当科かかりつけの患者でCOVID-19と診断されたのは18人であった。そのうち、1人はHIV感染症が判明する前にCOVID-19と判明し、HIVスクリーニング検査を入院中に行ったところ、陽性が判明した。3人は呼吸器症状があったため入院となり、いずれも回復後退院となった。どの患者も直近のウイルス量はコントロール良好であった。

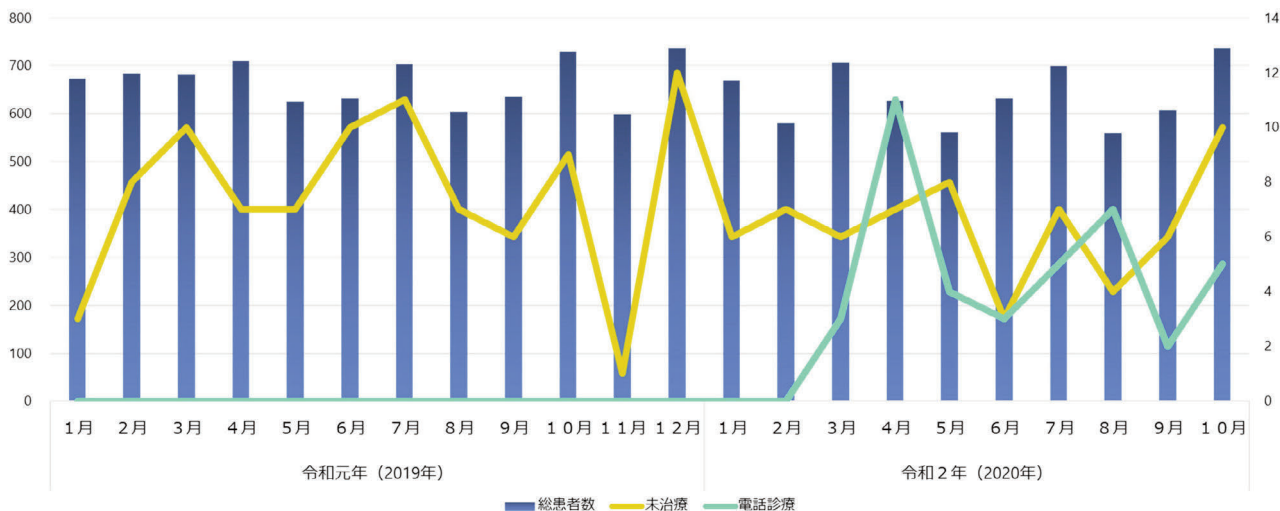


図1 月別定期受診者数・未治療新患者数・電話診療者数

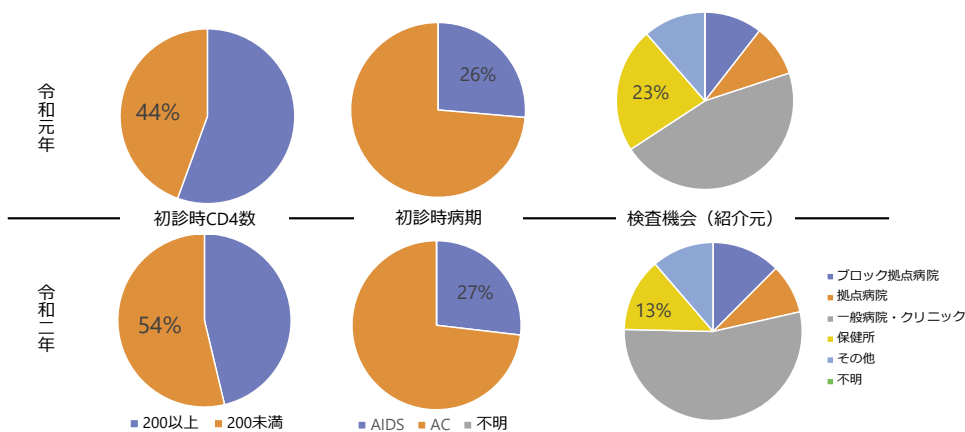


図2 令和元年・令和2年の新規未治療患者の初診時CD4数・病期・検査機会（紹介元）別人数

No	年代	直近のBMI	合併症	直近のCD4	直近のVL	収容先	入院理由
1	30	20.0	-	190	-	自宅	
2	40	28.7	-	427	-	自宅	
3	60	26.5	HBVキャリア	483	-	自宅	
4	30	32.9	高脂血症	505	-	病院	肺炎
5	50	36.9	乾癬	64	<20	病院	呼吸不全
6	50	26.6	高脂血症	442	-	自宅	
7	60	23.7	高脂血症・高血圧・糖尿病	1130	-	病院	肺炎
8	30	25.3	-	863	-	ホテル	
9	40	25.4	HCV-SVR	372	-	ホテル	
10	30	23.3	HBVキャリア	505	650	病院	
11	20	25.5	-	491	<20	自宅	
12	30	34.1	肥満	748	<20	病院	肺炎
13	40	27.3	喘息	398	-	自宅	
14	30	25.6	-	636	79.6	自宅	
15	30	26.4	-	550	-	自宅	
16	40	23.9	尖圭コンジローマ	238	-	自宅	
17	20	26.4	-	883	-	自宅	
18	40	26.8	高血圧	606	-	自宅	

No.10はHIV診断前にCOVID-19診断

図3 当院かかりつけの新型コロナウイルス感染者

4) 地域の保健所等による検査提供体制（図4）

現在愛知県内でHIV無料匿名スクリーニング検査が行われているのは地図上の数か所のみである。名古屋市の保健センターに至っては日曜検査を除くすべての区での検査が中止されている。2021年2月2日現在、名古屋市保健センターのHIVスクリーニング検査再開の目途はたっていない。

5) 当院の研修・講習の実施状況

当院で行う研修については各職種希望があれば特に制限することなく継続しているが、多人数が集まる講習会は2020年3月を最後に現在はWebでの開催へと移行している。

6) 所属施設の新型コロナウイルス感染症への対応状況

名古屋医療センターでは現在COVID-19による10-15人の入院患者を擁している。入院患者の重症度は人工呼吸器装着患者を含む。発熱外来もある。当科かかりつけでCOVID-19が疑われる患者は発熱外来でSARS-CoV-2の抗原検査を行い、陰性が確認出来たら各科窓口にて受診手続きを行うようにしている。COVID-19患者が入院する病棟では2週間ごとに交代で内科医師が勤務している。

7) 診療担当医の新型コロナウイルス感染症への従事状況

当科所属の常勤医師4人の内、3人が発熱外来を担当している。また1人は院内のCOVID-19対応病棟設営立ち上げの中心的役割を果たしてきた。また1人は、SARS-CoV-2検査フローの構築およびCOVID-19関連の多施設共同研究の窓口を担当した。

8) 国内外国籍患者の処方困難症例

一部の国におけるCOVID-19蔓延阻止のためのロックダウンにより、処方困難症例が4例認められた。全例、日本では身体障害者手帳を取得せず、母

国より定期的に内服薬を親族から送付することでHIV治療を続けてきた。4例中3例はフィリピン国籍の患者で、1例はブラジル国籍であった。4人も日本では健康保険に入っているが、母国でHIV診断・治療導入後来日したため、日本で身体障害者手帳が取得できず、母国からの薬の輸入を行っていた経緯がある。4例中1例は母国から検査データを得て、身体障害者手帳申請を行い、現在は当院にて定期通院しているが、3例は母国のロックダウン解除後、受診中断となった。

D. 考察

COVID-19の蔓延に伴い、今まで行われてきた診療体制に変化が認められた。未だ終息には程遠い状態であり、感染状況に応じた柔軟な検査・診療体制を構築する必要がある。

E. 結論

COVID-19拡大下、当院の定期通院者数に大きな変化は認められなかったが、紹介元に変化が認められた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 今橋真弓、金子典代、高橋良介、石田敏彦、横幕能行. 名古屋市無料匿名性感染症検査会受検者における性感染症既往認識と検査結果. 日本感染症学会誌, 31(1), 2020.
- 2) 蜂谷敦子、今橋真弓、岩谷靖雅、横幕能行. HIV-1陽性検体を用いたAlinity mシステムによるHIV-1ウイルスの核酸定量検査の検討. 医学と薬学. 77(10):1443-8.2020.



図4 地域の保健所等による検査提供体制

- 3) Hashiba C, **Imahashi M**, Imamura J, Nakahata M, Kogure A, Takahashi H, Yokomaku Y. Factors Associated with Attrition: Analysis of an HIV Clinic in Japan. *Journal of immigrant and minority health*. 2020. doi: 10.1007/s10903-020-00982-y (Online ahead of print)
- 4) 重見 麗、岡崎玲子、大出裕高、松田昌和、久保田舞、矢野邦夫、鶴見 寿、奥村暢将、谷口晴記、志智大介、池谷 健、伊藤公人、松本剛史、倉井華子、川端 厚、羽柴知恵子、中畑征史、小暮あゆみ、服部純子、伊部史朗、**今橋真弓**、岩谷靖雅、杉浦 互、吉村和久、蜂谷敦子、横幕能行. 東海ブロックで流行する HIV-1 の遺伝子多型とインテグラーゼ阻害剤に対する耐性変異の経年的頻度解析. *感染症学雑誌*. 93(3):312-8.2019.
- 5) 岡崎玲子、重見 麗、松田昌和、久保田舞、矢野邦夫、鶴見 寿、奥村暢将、谷口晴記、志智大介、池谷 健、伊藤公人、松本剛史、倉井華子、川端 厚、羽柴知恵子、中畑征史、小暮あゆみ、服部純子、伊部史朗、**今橋真弓**、岩谷靖雅、杉浦 互、吉村和久、蜂谷敦子、横幕能行. 東海ブロックにおける HIV-1 非サブタイプ B の動向調査と伝播性薬剤耐性変異の頻度. *感染症学雑誌*. 93(3):298-305.2019.
- 6) Shiroishi-Wakatsuki T, Maejima-Kitagawa M, Hamano A, Murata D, Sukegawa S, Matsuoka K, Ode H, Hachiya A. **Imahashi M**, Yokomaku Y, Nomura N, Sugiura W, Iwatani Y. Discovery of 4-oxoquinolines, a new chemical class of anti-HIV-1 compounds. *Antiviral research*. 162:101-9.2019.
- 7) Ode H, Kobayashi A, Matsuda M, Hachiya A, **Imahashi M**, Yokomaku Y, Iwatani Y. Identifying integration sites of the HIV-1 genome with intact and aberrant ends through deep sequencing. *Journal of virological methods*. 267:59-65.2019.
- 8) **Imahashi M**, Fujimoto K, Kuhns LM, Amith M, Schneider JA. Network overlap and knowledge of a partner's HIV status among young men who have sex with men. *AIDS care*. 31(12):1533-9.2019.
- 9) Matsuoka T, Nagae T, Ode H, Awazu H, Kurosawa T, Hamano A, Matsuoka K, Hachiya A, **Imahashi M**, Yokomaku Y, Watanabe N, Iwatani Y. Structural basis of chimpanzee APOBEC3H dimerization stabilized by double-stranded RNA. *Nucleic acids research*. 46(19):10368-79.2018.
- 10) **Imahashi M**, Yokomaku Y. Middle-aged man with symmetrical lesions in his throat. *European journal of internal medicine*. 55:e7-e8.2018.
2. 学会発表
- 1) 笠原嵩翔、三輪紀子、羽柴知恵子、森美喜子、林 雅、**今橋真弓**、小暮あゆみ、横幕能行、岩谷靖雅. 当院における PCP 発症 AIDS に対する早期 ART 導入の臨床的検討. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会. 2020.11.27~12.25 (Web)
- 2) 菊地 正、蜂谷敦子、西澤雅子、椎野禎一郎、俣野哲朗、佐藤かおり、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、潟永博之、岡 慎一、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島英明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂 寛、渡邊珠代、**今橋真弓**、松田昌和、重見 麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、小島洋子、森 治代、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南 留美、山本政弘、松下修三、健山正男、藤田次郎、杉浦 互、吉村和久. 国内新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV-1 の動向. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会. 2020.11.27~12.25 (Web)
- 3) 松岡梨恵、平野 淳、福島直子、松木克仁、古田みち、**今橋真弓**、岩谷靖雅、中井正彦、増田純一、横幕能行. 簡易懸濁法によりビクトルビ配合錠を投与し、血漿中ビクテグラビル濃度を検討した 2 症例. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会. 2020.11.27~12.25 (Web)
- 4) 平野 淳、松岡梨恵、福島直子、松木克仁、古田みち、**今橋真弓**、岩谷靖雅、中井正彦、横幕能行. 新規非ヌクレオシド系逆転写酵素阻害剤 Doravirine の有効性および安全性に関する検討. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会.. 2020.11.27~12.25 (Web)
- 5) 重見 麗、山村喜美、松田昌和、岡崎玲子、久保田舞、齋藤誠司、柳澤邦雄、柳 富子、伊部史朗、根本理子、前島雅美、助川明香、**今橋真弓**、杉浦 互、岩谷靖雅、蜂谷敦子、横幕能行. 国内の HIV-2 精査検体を用いた、HIV 診断における Geenius HIV1/2 Confirmatory Assay の有用性についての検討. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会. 2020.11.27~12.25 (Web)
- H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)
1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし